



鳥類 動植物

汐川干潟やその周辺は、鳥類の種類が特に多く、これまでに253種、近年（平成8年～13年）だけでも167種の記録があり、これは愛知県全体（393種）の約65%にあたります。その代表として、全国的にも種類数と個体数が多いシギ・チドリ類があげられます。

特に、ここで越冬するダイゼンとハマシギは、『レッドデータブックあいち』で地域個体群にあげられ、全国的にも重要な個体群と言えます。長距離の渡りをする事で知られているシギ、チドリ類は、毎年のようにオーストラリアや北海道東部で標識をつけられた個体が観察されており、汐川干潟は、東アジア地域における、シギ・チドリ類の渡りの中継地であることが明らかになっています。

絶滅のおそれのある種

干潟に生育・生息する動植物の中には、国内または県内で絶滅の恐れがあるとされる種が数多く含まれています。例えば、ウミナは干潟のあちこちで見られます。シバナ群落は小規模ながら安定しており、数は少ないもののホウロクシギが定期的に渡来します。汐川河口部のヨシ群落には、オカミミガイなど希少な貝類が生息し、その周辺には県下でも数少ないハマボウ群落があります。

一方で「モク」の呼称で知られるアマモ類は昭和45年までに、アゲマキガイは昭和55年までに汐川干潟で絶滅したと考えられています。

干潟や河口域の湿地(ヨシ原など)は、国内および県内で著しく減少してきました。干潟は、そうした環境にしか住むことができない動植物にとって残された数少ない生育・生息の場であり、生物種の保存のうえで重要であると言えます。



オカミミガイ

環境課 ☎ 23局3541

長野県 宮田村へ

おいでなんしょ

今回は、宮田村のお勧めスポット をご紹介します。

「おいでなんしょ」は、田原市の友好都市である長野県宮田村周辺の方言で「おいでくださいませ」という意味です。

中越遺跡

縄文時代前期を知る 貴重な遺跡

宮田村には、村の東部、^{にしはら}西原地区に広がる巨大な集落遺跡があります。この中越遺跡からは、縄文時代前期初頭の密集した家の跡や「中越式土器」などが発見されていて、宮田の地が独自の文化圏の中心として栄えていたことが分かります。出土した中越式土器は、縄目の模様が流行していた東日本の中で、簡素な西日本的な文様をつけた極めて個性的な土器です。中部高地の縄文時代の歴史上、初めて自前の文化を持ったことを示す資料として、高く評価されています。中越式土器のルーツは、^{しみずのうえ}愛知県南知多町にある清水ノ上遺跡から出土した清水ノ上式土器と言われています。中越遺跡では、海辺から運ばれてきたこの種の土器がたくさん発見されています。

中越遺跡から出土した土器 28点・石器 191点・

石製品 2点の遺物は、長野県の宝（県宝）に指定されています。これらをはじめ、村内の遺跡から発見された遺物や文化財は、文化会館に展示されています。



県宝に指定されている中越式土器は、文化会館に展示されています。

田原市にも縄文時代晩期を代表する遺跡「吉胡貝塚」があります。もしかしたら、田原市と宮田村は、この頃から人々の交流があったのかもしれないね。

宮田村文化会館 ☎ (0265) 85局4155
休館日 = 毎週水曜日・祝日
利用時間 = 午前9時～午後9時

宮田村教育委員会 ☎ (0265) 85局2314